

2025年度 第3回地域事業支援会議 埼玉県士会版

2026年2月15日、日本作業療法士協会による「第3回 地域事業支援会議」が開催されました。本会議では、協会の重点活動項目である「地域共生社会5ヵ年戦略」に基づき、地域で活躍できる作業療法士をいかに育成し、自治体事業へ戦略的に配置していくか、その核となる新研修システムの設計と展望について議論が交わされました。

求められるのは、地域を俯瞰する「ジェネラリスト」



つながる力



伝える力



ジェネラリスト



現在、社会保障の枠組みは、医療・介護の個別ケアを超え、住民一人ひとりが主役となる「地域共生社会」の構築へと大きく舵を切っています。こうした中、OTには単なるリハビリテーション技術の提供者ではなく、対象者の「活動と参加」を軸に、生活、就労、教育といった多様な分野を横断的に捉え、地域の中に居場所と役割を創出する「ゼネラルマネージャー」としての役割が強く求められています。

教育部および地域包括ケア推進班が設計を進める新研修システムは、「基礎」と「応用」の二層構造により、ジェネラリストへのステップアップを支援します。

地域包括ケア推進班の活動領域の広がり、高齢者支援にとどまらず、制度化された5歳児健診、学校教育領域への参画、障害児・者の就労支援、さらには障害者スポーツ活動の普及など、まさに「わがごと・まるごと」の地域共生社会を体現する多様な取り組みが展開されています。ICTやAIが普及する時代だからこそ、人間にしか担えない「つながる力」「伝える力」「多職種を繋ぐ調整力」がOTの核になると強調されました。新研修では、これらの対人・対社会スキルを強化し、「このOTに相談したい」と指名されるジェネラリストの輩出を目指します。

グループワークの開催 後半は新しい研修会システムの構築に際し、以下3点について情報収集が実施されました。「カリキュラム設定」「協会-士会連動のあり方」「読み替え条件の整理」「その他・質問・要望等」

既存の取り組み

- 埼玉県担当者や多職種との関係づくり、OT同士の連絡会や情報共有ツールの活用

今後取り組みたい活動

- 精神疾患・発達分野の専門性を支援に活かす取り組み
- OT同士の連絡会強化、情報共有ツールの更なる活用

研修システムへの要望

- 病院勤務者が参加しやすい仕組み
- 精神・発達分野のOTが参加しやすい研修体制の構築について

編集後記

OTがますますジェネラリストとして活躍していく必要を感じた会議でした。専門性を追求しつつ様々な分野で活躍する地域のOTを繋いでいく活動を行っていきたいと思います。 埼玉県作業療法士士会 担当：平田 樹伸